

よか ネット

YOKANET

NO. 10 1994. 7

(株)九州地域計画研究所



6月3日、当事務所の7Fにおいて第2回よかネットパーティを行いました。「5人+α」の博多にわか7人衆が登場し、そのあどけなさ可愛さに会場からは拍手がわきおこりました。(本文4頁)

も く じ

〈NETWORK・ネットワーク〉

2. 第2回よかネットパーティ 人と人の出会いの場をめざして
5. 世界の研究学園都市の状況と21世紀の学術研究都市 アジアス九州推進会議
7. 思うように体が動かない! 「うらしま太郎」セットで高齢疑似体験
9. お年寄りの人口移動 若年層の流出は20数年後の高齢者の流出へ

〈見・聞・食〉

12. よかネットパーティ テーブルにずらり特産品のかずかず
14. 浴道にあふれるマチの個性 ー九州「道の駅」ー
16. 観光と芸能がにぎわいに ー高千穂夜神楽の話ー

〈近 況〉

17. バンコクに似てるのは大阪か博多か ー山崎 誠氏講演ー
18. 食場日誌

〈本・BOOKS〉

19. 「車椅子の少女が街に出た! 奈美ちゃんの赤い靴」矢貫 隆著

人と人の出会いの場をめざして

69品目のたべものと36種のサケでにぎわう

〈スタートは酒でつくった酒で乾杯〉

去年、全国各地から、送っていただいたり取り寄せたりして“うまいものパーティー”を行ったところ、大変喜んでいただきました。もともと「5年目ごとに」ぐらいの気持ちで始めたものですが、「辛い」というべきか「困ったことに」と言うべきか、「5年目ごとに……毎年やるべきだ!!」と叱声を戴くお客様もおられました。結局、「やむなく」というべきか「喜んで」というべきか、去年に続いて“うまいものパーティー”をやらせて戴きました。昨年以上の参加をい

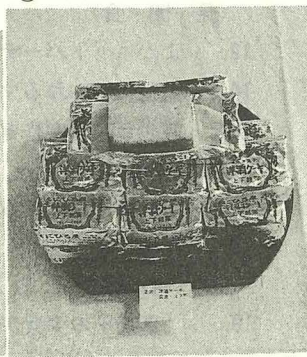
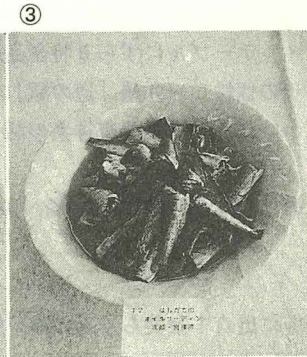
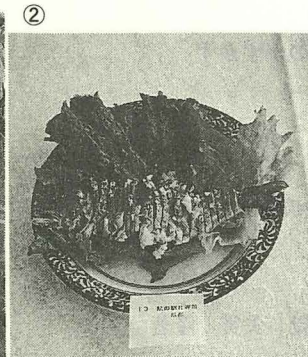
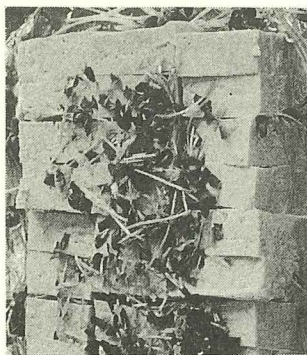
ただき、楽しいひとときとなりました。

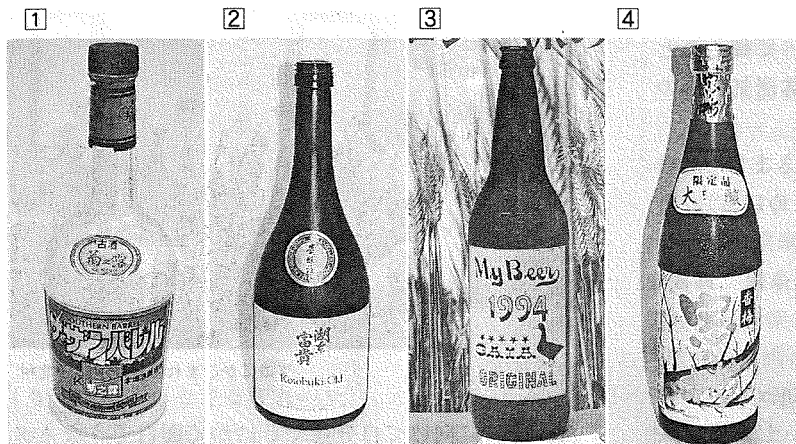
今年は多くの方々から、珍しく、楽しい品々をお送り戴いたり、ご紹介いただいたりして、去年より一層充実したものとなりました。

普通、酒は水と米糲（コメコウジ）でつくられるのですが、卯田さん（滋賀）から戴いた「湖東富貴」は酒+米糲でつくられたもののようです。なかなかこくのある味でした。味わってみたい上に気短な方は、ご注文ください。ガマン強い方は、来年をお楽しみに……。

食べもののベストフォー

- ① 杵岐の豆腐（長崎・杵岐）：おいしさの秘訣のひとつは「杵岐の岩清水」とのこと
- ② 鮎のなれ寿し（京都）：かなりキツイ味と香り、でも一度食べると病みつきになるとか
- ③ はしだてのオイルサーディン（京都・宮津湾）：わかりやすいうまさ、オイルサーディンという
と外国のものと思っていましたが、これは宮津湾の金太郎鰯で作った純国産品
- ④ 洋酒ケーキ（広島・上下町）：糸乗の仕事で委員になっていただいた町のお菓子やさんの奥さん
（千田千鶴子さん）のアイデア商品





飲みもののベストフォー

- ①泡盛サザンバレル（沖縄）：スルスルッと喉を通る癖のない泡盛
- ②湖東富貴（京都・近江八幡）：好評を得た「酒で作った酒」
- ③手作りビール（熊本・水俣）：本当の手作り、自分でビールを作るキットもあるとか
- ④香梅窓の梅（佐賀）：昨年のパーティでご紹介いただき好評だったため再登場

〈今年の“にわか”には所員も弟子入り〉

今年も「にわか」の皆さんに来ていただきました。

今年は三味線入り、2人の若い所員の弟子入りと、去年より盛況でした。できれば、たくさんの飛入りができるような座談芸が、博多の伝統の上に発展（10点より8点）したら楽しいと思います（にわかについては別稿）。

〈今年の人気たべもの、飲みもの〉

我が事務所では、7、8年前に偶然買ってきて事務

所で食べて以来“壱岐の豆腐”は伝説の味となっていました。今回なんとかしてその味を皆さんにお出ししたいと思いました（そのいきさつは別稿）。案の定大好評でした。何がうまいといって「普通の豆の香り、昔ながらの豆腐の味、舌ざわり」がうまかったというところです。

〈参加資格とおみやげの話〉

今年の参加資格は、①面白い話をもって集まる②うまいもの③うまいものの情報、のいずれかを持ってくるということとなりました。もしこれらの3点とも当てはまらないというときは④罰金500円ということでした。

蓋をあけてみると、うまいものをもって来て戴きながら罰金も出された方がおられたようです。

準備の過程で思ったよりもめたのがお土産でした。つまり「気がきいていて罰金より安いもの」というコンセプトに合うものがなかなか見つかりにくいということです。結局、①記念となるテレカをつくる（竹原古墳の装飾壁画を撮りました）②小鹿田（オン



おみやげ3種

ダ)のうるか壺(別稿)③「ことばあそびうた」の本を用意し、いずれかひとつ持って帰って戴くことになりました。テレカはなかなかよい雰囲気のものができ、好評でした。

皆さまのご支援で楽しいパーティができました。来年もというか(3日坊主で終わらないためにも)、あと2回以上はやりたいと思っています。来年もよろしくお願いします。(糸乗 貞喜)

〈壱岐豆腐のはなし〉

以前から壱岐の豆腐が美味しいのを知っていたので、是非パーティにと思っていました。しかし、入手のルートもないし、どうしようかと思い、行きつけの飲み屋さんでその話をしたところ、偶然にも壱岐の九州物産商事にお勤めの方がいらして、「是非まかせてください。いいところを知っています。」とふたつ返事で引き受けてくださいました。一応、名刺をお渡ししてお願いしておいたのですが、酒の席のこと、たぶん自分でルートを見つけることになるのだなあと思っていたとき、壱岐豆腐を扱っている井川食品の方からお電話をうけました。「たしかにパーティの当日お持ちします。」とのこと。人づてでお願いしているとはいえ、見も知りもしない方が、わざわざ豆腐を5丁持って壱岐から来てくださるとは思いもしませんでした。パーティ当日の朝作られた豆腐は、その日、切って出されたのです。皆様、いかがでしたか。(尾崎 正利)

〈博多にわか単なるダジャレじゃない〉

去年のパーティーで博多にわかを見て以来、「これは自分達でも出来るぞ」と思い、我々は本当に今年のパーティーでにわかをする事になってしまいまし



プロにかこまれ緊張の伊藤・北村

た。それに向けて自分達でとにかく面白そうなネタを考え、一度にわか師の方に御指導頂きました。その時はじめて“いいネタ”と“単なるダジャレ”の違いがわかりました。

簡単にいうと、音が同じで、会話はそのまま両方の意味で通じるものがよく、さらに風刺が効いてるとよりよいわけです。例えば、面白くても会話として成り立っていないものは、

「柳川の川下りばしよう思うて船頭さんに頼んだら、断られた」

「どげんいうて」

「こげんいうて」

逆によくできたのは、例えばこんなものです。

「うちのいところが音楽家ば目指してトランペット始めてもう3年になるばってん、まだドとレしか出らん」

「そんなことで花開くじゃろか」

「先生が言いよったばい。『もうすぐ実がなる(ミがなる)やろう』て」

こうして我々は、少しだけ自信をつけてパーティーにのぞんだのでした。(伊藤 聡)



大盛況、多くの出会いがありました

〈もてなす側がもてなされ…〉

テーブルが全国各地から集まってきた特産品で埋まり、私はサービス係として会場に入りました。そこでは皆様の真心をこめた歓待がまっていました。

- ・「ありゃあなた、袖振れ合うもの多生の縁というやろが」「ははは」
- ・「こりゃあんた、今食べとかとんと損するたい」「そうですね」
- ・「ほら、ここに座ってゆっくりせんね」「ありがとうございます」

仕舞には、

- ・「このお酒、私が持ってきたのだけど、おいしいんだよね、これ、あなたもどうぞ、どうぞ」「いっ、いただきます」

といった具合で、いつのまにかどちらがもてなし、もてなされているのかわからなくなって、嬉しいやら、申し訳ないやら…。今日、こうして全国から集まった特産品、酒、焼酎に囲まれて、地域づくりに関心持つ方々の交流の中にいられたことに感謝しつつ、これからそのひとりとして、負けないで頑張っていく決心をしたのでした。

(伊藤 加奈)

世界の研究学園都市の状況と

21世紀の学術研究都市

アジアス九州推進会議総会（特別講演より）

5月30日に、アジアス九州推進会議の総会が行われ、その後、特別講演会が開催されました。今回の講演は、日本の研究学園都市づくりの先駆けである筑波研究学園都市整備の要として尽力され、現在は同研究都市内の研究交流センター「筑波研究コンソーシアム」の専務理事、河本哲三氏による学術研究都市づくりについてのお話です。以下では、その講演の概要を報告します。

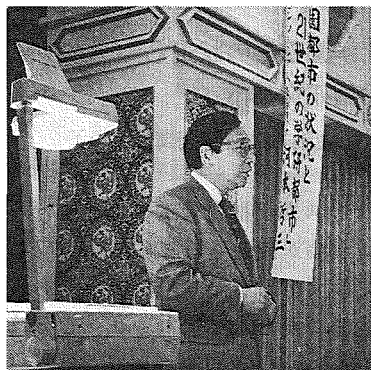
〈研究学園都市の発想と定義〉

研究学園都市づくりは、本来、悪い居住環境下にある国や地域で、研究センターを計画する時に自然に発想されるものであり、住居と研究所を近接して計画的に整備することを主眼としている。

また、研究という特殊な活動を行うために「研究環境を世俗から切り離す」ことを狙いとして整備される。特に旧ソ連、アメリカの研究学園都市（ノボシビルスク、ロスアラモスなど）では、当初から辺鄙なところに「住居・研究の一体的な空間整備を図り、俗世間から切り離す」ことを目的に整備された。

〈世界の研究学園都市〉

世界中で研究学園都市として整備されている都市は以下のような都市が挙げられる。いずれの都市も職・住機能が近接して整備されている。しかし、大都市の中や周辺地区に整備されているものもあり、全てが計画的に整備された都市とは限らない。



講演中の河本氏

〈筑波研究学園都市整備にあたって〉

我が国最初の研究学園都市・筑波市は、過密化が進行した東京から、研究施設の移転を目的として整備が図られた。計画時には「遠くて辺鄙な」ところへの研究機能の移転を反対する声も多かったが、「研究学園都市における研究同士の触れ合いの効果」「ビューローコントロールに左右されない地理的利点」など、研究施設の移転のメリットを説いて研究学園都市の整備を推進した。

学研都市整備は大都市から離れた地域で行われる方が、研究、居住の環境上の改善となると思われた。

〈研究学園都市の評価と将来的な課題〉

筑波研究学園都市における研究者社会では、ひと昔前の「タテ割り型」の研究、交流のスタイルは変わりつつあるようである。

しかし、今後、21世紀の学研都市づくりという点でみると、筑波に限らず日本の学術研究をめぐる環境整備については、以下の数点の課題が考えられる。

- ・研究者個人のレベル向上のためのインフォーマルな異業種の研究交流など、研究者社会のネットワーク形成。

世界の研究学園都市一覧

	【大都市圏】	【地方】
東アジア	つくば（総合） けいはんな（総合）	宮崎 東広島 大徳 TAEDOK（総合）
シベリア		ノボシビルク（総合） イルクーツク（総合） トムスク（総合） クラスノヤルスク（総合）
ヨーロッパ1	オブニンスク（核物理） ドブナ（高エネルギー物理） セルプホフ（高エネルギー物理） プシチーノ（生物） チュエルノゴロフカ（固体物理） ゼレノグラード（マイクロエレクトロニクス） ズコフスキー（航空） カリニングラード（宇宙センター） ドルゴブルドニ（軍事技術教育） トロイック（物理） リトカリーノ（レーザー、光科学）	
ヨーロッパ2	ガチナ（核物理）サンク・ベテルブルク郊外 ルーバン・ラ・ヌーブ（ルーバン大学） ブリュッセル郊外	バルボン・ソフィア・ アンチボリス（総合）

- ・創造的研究の促進を図るための、ヨコ割りの研究システムを評価する研究者の流動システムづくり。
- ・研究者個人の研究成果、ユニークな研究や個人研究を評価するオンリーワン研究者の研究者を評価する研究者社会の文化づくり。
- ・大学と大学院の連携や客員教授の登用など、研究者が後継研究者を育てられる教育システム。
- ・専門書店（500坪以上）、研究交流活動等を支える交通基盤、緑と水の豊かさ、やすらぎが感じられる住宅など、くつろぎやすらぎが感じられるような、新しいライフスタイルを生むまちづくり。

これらは、今後の研究学園都市づくりの大きな柱となる課題であり「かしこい地域づくり」の条件にもなりうる。

〈かしこい地域の条件〉

かしこい地域とは「新規に学研都市づくり」を目的としなくても、イノベティブな環境が整った地域である。知的活気のある地域ではイノベティブな環境としての基盤が整っているため、将来的に知的活動が継続しやすい。そのため、地域内外の技術のインテンシブが可能となる交通基盤、都市基盤が整備された地域は、将来的にかしこい地域となる条件を備えている。

〈九州での学研都市の展開〉

我が九州ではネットワーク型の学術研究都市づくりが目指されているが、既存の研究機能活用型のスタイルや、既存の研究基盤の集積、九州の内外に開かれた交通基盤の整備などにより、いろいろな人が交わる空間としてインセンティブな交流が実現でき、イノベティブな環境を整えた「かしこい地域」として整備される可能性は高い。(尾崎 正利)

思うように体が動かない！

「うらしま太郎」セットで高齢疑似体験

5月25日、地域ゼミ特例会として、先号でご紹介した高齢者疑似体験セット「うらしま太郎」を、実際に体験してみました。

〈12点の装置を身につける〉

「うらしま太郎」のセットは、片手で持つことのできるスーツケース「玉手箱」の中にコンパクトに収納されています。(20kg)

中身は、①靴型サポーター（足首を固定）②膝サポーター（膝を固定）③足首重り（1kg）④肩チョッキ（重り付き）⑤耳栓（両方の耳に着用、高周波の

音をカット）⑥ゴム手袋⑦その上から木綿手袋⑧さらに手のサポーター（⑥⑦⑧により手の感覚が鈍り、指先が開かない）⑨肘サポーター（肘を固定）⑩腕に重り（750g）⑪メガネ（白内障のため、色が黄変、70才以上の人の9割は白内障）⑫杖（装置を付けていない方の手に）、以上12点です。

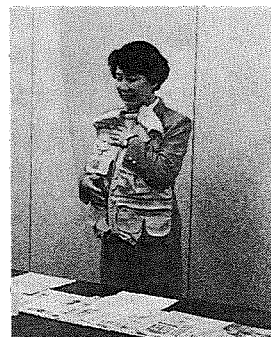
このグッズを、利き足、利き腕に装着します。

〈階段を降りる、新聞を読む、味噌汁を飲む一普通のことが一大事に〉

装置を身に付けたら、予め用意されている封筒をとって封を開け、中の体験プログラムを読みます。（すでに体験が始まっています。高齢になると封を開けるのが難しいのです）。これにしたがって高齢者行動を体験します。このプログラムには、例えば「階段で6階に降り、用意された味噌汁を購入してお金を支払ってください。7階にエレベーターで戻り、味噌汁に湯を入れて飲んでください。……」といった、日常的な行動が指示されています。

装置を付けてただけで、体が重く、歩くのがだるい感じがします。扉の敷居をまたぐにも、足が思うように上がりません。実際に、敷居に躓き、足の骨を折って寝たきりになってしまうお年寄りが多いそうです。

階段の昇り降りでは、必ず手すりをつかんで片足ずつ、ゆっくりとしか降りることができなくなります。日常、特に意識することなくやっている動作の



玉手箱の中身を説明する服部さん



敷居もまたぐのも一苦労

一つ一つに注意が必要で、どうしても緩慢な動作になってしまうのです。

体験が終わったあとの反省会で、出席者からは次のようなことあげられました。

(セットを装着して)

- ・だんだん身体を動かしたくなくなる。
- ・確認するためにことばを言いたくなる。

(歩く)

- ・敷居がまたぎづらい。

(階段)

- ・降りる時手すりがほしい。
- ・片足ずつしか降りれない気持ちがわかった。

(耳)

- ・注意が遠くに聞こえる。ひと事のような。

(眼)

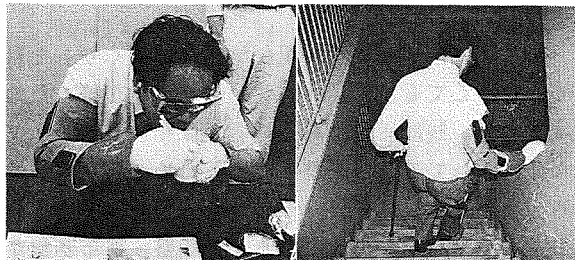
- ・サインの下地が暗いと文字が判別しづらい(特に青、赤)。
- ・エレベーターの階段の表示が見えにくい。
- ・時刻表は、下地が暗く読みづらい。赤字も判別しにくい。

(食べる)

- ・即席味噌汁は、包装をとるのが大変。中身は粉のほうが良い。液は手が汚れる。
- ・ペットボトルのジュースは口が小さく開けづらい。

(電話)

- ・電話はメモをとるのに時間がかかる。



ひじが曲がらず味噌汁が飲みにくい

片足ずつしか降りれない気持ちがわかる

〈老化は誰にでもおこるもの〉

服部さんは、老化とは、①誰にでもおこり、②進行性、③内在性のもので、④人間にとってマイナスでしかないもの、そしてこれが死につながってしまう、と話されました。

たった10分くらいの疑似体験でも、思うように体が動かず、ストレスを感じましたが、40年後はこれが日常のことになってしまうのです。

現在、この「うらしま太郎」セットは、看護婦、保健婦等の福祉、介護関係者のセミナーだけではなく、スーパー、化粧品会社等の企業のセミナーも行われており、また学校向けにもプログラムが組まれています。

疑似体験により、老化を人ごとではなく、将来の自分の姿として捉え、住みやすい高齢者社会について考えたり、高齢者理解のための意識の向上にもつながるのではないのでしょうか。

※高齢者疑似体験セット「うらしま太郎」については、当社、もしくは(株)服部メディカル研究所(03-3465-3147)へお問い合わせください。

(歌丸 星子)

お年寄りの人口移動

若年層の流出は20数年後の高齢者の流出へ

今年、鹿児島県の住宅関連の調査の一環として年齢別の人口移動の状況をまとめている時に、余りにもお年寄りが転出していることに驚くとともに、ひょっとしたら、これは『地方のお年寄りが、20数年前に都会に出て行った子供の元へ行っているのではないか』と思った。このような仮説を念頭において九州・沖縄に限ってのお年寄りの人口移動について、その概観をまとめてみた。

〈鹿児島県、長崎県の高齢者の転出超過数が特に多い〉

人口移動の実数はその調査時点から過去5年間の数値であり、例えば平成2年調査では、昭和60年～平成2年までの5ヶ年間の総数であるが、高齢者の移動のみをみると、次の5つの点について気がかりになった。

- ・ 高齢者の総転入数は約2万6千人で昭和55年時と概ね変わらないが、総転出数は約2万8千人から平成2年には約2万9千人と約千人程度転出者が増えている。全体でみると高齢者数そのものが約1.3倍増加しているため、全体の転出数の増加は必然的なことであるが、県単位でみると極めて差があり、特に鹿児島県、長崎県では高齢者転出者超過数（転入者数と転出者数の差）そのものの量が千人を超えており、昭和55年時の約3倍近く増えている。
- ・ 鹿児島、長崎県では昭和55年時に高齢者の転出超過数がそれぞれ435人、439人と多く、既に転出者が多くなる兆しが見えていた。
- ・ 大分県、佐賀県では転出超過数がそれぞれ537人、378人と鹿児島県、長崎県ほどではないが、増加率は約3倍、2倍と高く、将来は鹿児島県、長崎県に追従する可能性があるかもしれない。
- ・ 福岡県、沖縄県は転入超過者数が多く、高齢者も流入型の地域となっている。特に福岡県では九

九州・沖縄 5歳階級別転入・転出者数の推移

	昭和55年			平成2年			超過数 増減数 S55～H2
	転入者数			転出者数			
	転入	転出	転出入超過	転入	転出	転出入超過	
総数	653,450	701,299	-47,849	860,092	1,095,500	-235,408	-187,559
5～9歳	54,959	49,288	5,671	72,436	70,414	2,022	-3,649
10～14歳	31,064	28,491	2,573	57,446	57,323	123	-2,450
15～19歳	86,706	133,003	-46,297	85,985	146,790	-60,805	-14,508
20～24歳	111,277	126,663	-15,386	144,267	277,392	-133,125	-117,739
25～29歳	115,594	115,314	280	129,486	144,115	-14,629	-14,909
30～34歳	83,736	79,041	4,695	96,376	103,924	-7,548	-12,243
35～39歳	45,269	42,674	2,595	82,650	86,314	-3,664	-6,259
40～44歳	29,101	28,844	257	65,011	70,815	-5,804	-6,061
45～49歳	24,250	24,832	-582	35,445	42,961	-7,516	-6,934
50～54歳	21,901	22,626	-725	25,680	29,944	-4,264	-3,539
55～59歳	14,239	13,623	616	22,093	22,166	-73	-689
60～64歳	8,695	8,833	-138	17,212	14,190	3,022	3,160
65歳以上	26,659	28,067	-1,408	26,005	29,152	-3,147	-1,739

※1 プラスが転入超過 ※2 マイナスが転出超過

資料：国勢調査

州各県からの流入が多く、他県からのお年寄りが福岡県に吸収されている。

- 宮崎県の転出超過数は△56人（昭和55年）から5人（平成2年）、熊本県では同じく145人から195人と県レベルでは比較的安定している。しかし両県については市町村毎にみてもみる必要があると考えられる。

〈高齢者の転出数増加は過疎化の問題か〉

特に高齢者の転出は、過疎化にひきつられての転出ではないかということで鹿児島県と長崎県での人口の推移状況との関係を見る。

昭和60年～平成2年での人口推移をみると鹿児島県と長崎県は九州・沖縄の中で最も人口が減少している県（それぞれ1.2%、1.9%の減少率）であり、やはり全体の過疎化現象が田舎で高齢者が住めない環境となってきたのではないかと考えられる。

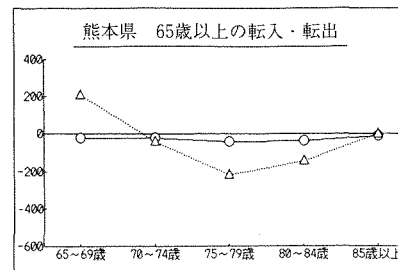
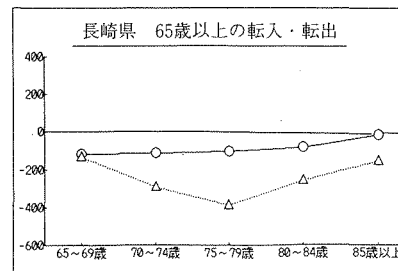
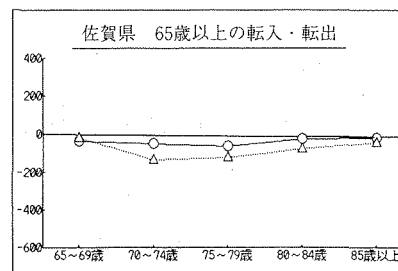
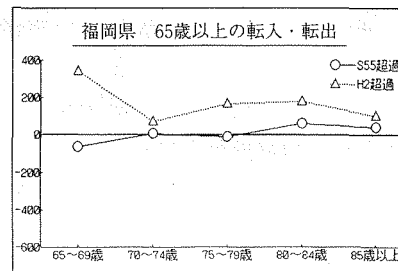
また、鹿児島県や長崎県では多くの離島を抱えているため、離島のお年寄りがかなり転出しているのではないかと推察される（これについては次回以降に市町村別データーが揃えば、何か言えるかも知れない）。

九州・沖縄の高齢者人口の推移

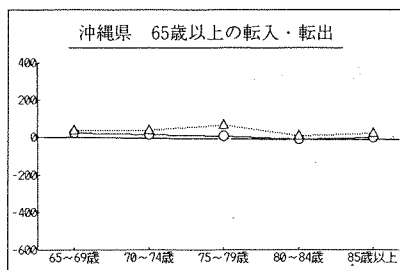
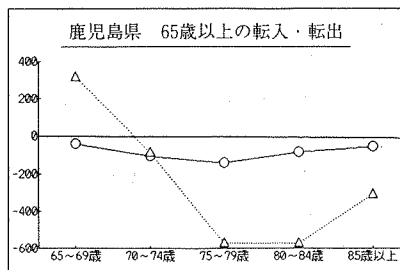
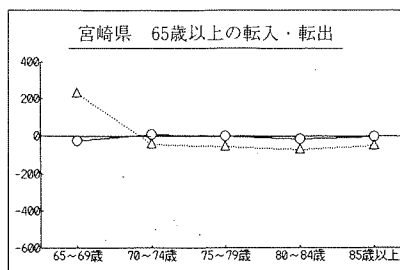
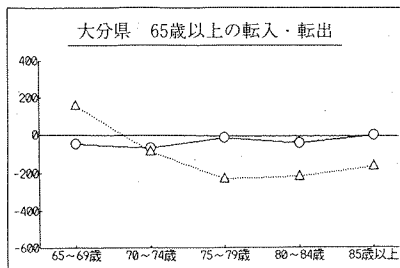
	昭和55年		平成2年	
	高齢者数	高齢化率	高齢者数	高齢化率
福岡県	426,495	9.4%	597,869	12.4%
佐賀県	102,377	8.5	132,972	15.1
長崎県	169,753	10.6	228,991	14.7
熊本県	210,051	11.7	284,017	15.4
大分県	144,240	11.7	191,441	15.5
宮崎県	120,638	10.4	166,539	14.2
鹿児島県	226,853	12.7	298,904	16.6
沖縄県	85,819	7.8	121,082	9.9
計	1,486,226	10.6	2,021,815	13.9

資料：国勢調査

各県別高齢者の転入・転出者数の状況（昭和55年・平成2年）



注 マイナスは転出超過



〈高齢者転出者増加の原因は「団塊の世代」の子ども元へ移動しているため〉

高齢者の転出先をブロック別にみると関西ブロック1,310人と最も多く、次いで九州ブロック1,264人、関東ブロック1,121人となっており、この3つのブロックで全体の8割を占めており、都道府県別にみると大阪府(713人)、福岡県(451人)、兵庫県(420人)、東京都(356人)などが多い。

そこで、高齢者の移動が10年前に比べて増加している原因を探るため、「団塊の世代」が20~24歳であった昭和45年当時の人口移動をみると、鹿児島県では約77,000人が他県に転出しており、その転出先は大阪府15,670人、東京都10,710人、愛知県6,830人と三大都市圏にほとんど出ていっている。これは福岡県を除いて高齢者の転出先と概ね一致する。

従って、昭和60年~平成2年の間において、特に単身あるいは夫婦世帯の高齢者が、団塊の世代である都会の子供の元へ移動したのではないかと推察される。

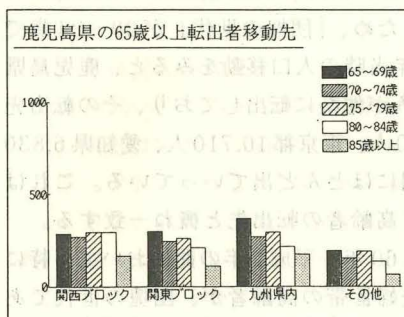
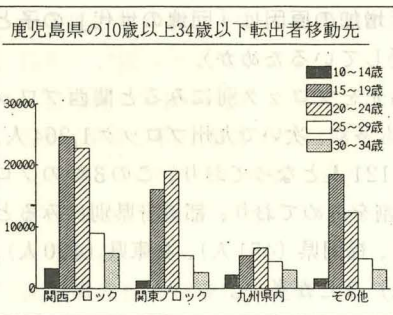
〈高齢者の移動からみても定住型の地域づくりが大切である。〉

いずれにしてもこのような高齢者の転出は、高齢

県別人口の推移

	昭和55年	昭和60年	平成2年	S55~H2 増減率	S60~H2 増減率
福岡県	4,553,520	4,719,259	4,811,050	5.7	1.9
佐賀県	865,603	880,013	877,851	1.4	△0.2
長崎県	1,590,554	1,593,968	1,562,959	△1.7	△1.9
熊本県	1,790,277	1,837,747	1,840,326	2.8	0.1
大分県	1,228,924	1,250,214	1,236,942	0.6	△1.1
宮崎県	1,151,575	1,175,543	1,168,907	1.5	△0.6
鹿児島県	1,784,364	1,819,270	1,797,824	0.8	△1.2
沖縄県	1,106,595	1,179,097	1,222,398	10.5	3.7
計	14,071,412	14,455,111	14,518,257	3.2	0.4

資料：国勢調査



者にとって長年住み慣れた地域を離れるという転出元の過疎化や空家・空き地の問題、もう一方は子供以外に身寄りのない高齢者が都会に移動して地域になじめないといった転入先での高齢者自身のコミュニティの問題といった両面を抱えており、今後の高齢者を含めた地域問題を秘めているように感じる。

このようにみると、地方が将来Uターン、Jターンできる定住型の環境を整備していかなければ、若者が東京や大阪などの大都市へ転出し、さらにまた高齢者も居なくなっていくことが予想され、地方の過疎化を通り過ぎて、集落の崩壊といった問題が危惧される。

(山田 龍雄・神野 みつえ)

よかネットパーティ

テーブルにならぶ特産品のかずかず

今回のパーティには、事前に準備していたものが75品、そして、当日お客様にいただいたものが31品と合計100品以上の特産品を皆様にお出しすることができました。去年は、はじめてのパーティでしたので、自分達のおもいとこだわりで集めた特産品がほとんどでした。しかし今回は、事前に特産品情報をよせていただいたこと、また参加資格としてうまいものかうまいものの話とさせていただきましたので、当日はたくさんの品をもってきてくださったことと、ずいぶん皆様に協力していただきました。改めてお礼を申し上げます。

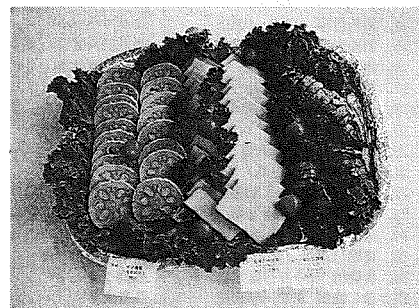
ここで、特産品のいくつかをご紹介します。

- ・石狩の味、数の子にしん、いかめし、松前漬
寒地住宅都市研究所 高橋章弘さんからいただいた、これぞ北海道、という味のかずかずでした。
- ・さいばし（大阪・羽曳野市）
羽曳野市の仕事をさせていただいたときの発見品。ウェルダン程度に焼き上げた馬肉の薫製。去年のパーティで好評でしたので、今年も藤原和敏さんにお骨折りいただきました。
- ・鮎寿司（滋賀・大津）
琵琶湖の子持ちフナのなれずし。
- ・手作りビール（熊本・水俣）
うまいビールの素でつくられた、ガイアみなまの柳田さんのビールです。種類もいろいろで、まさに手作りの品でした。
- ・酒白嶽（長崎・対馬）
長崎県の川添 亨さんにいただいた対馬の酒。

第2回 よかネット・パーティ特産品一覧

〈特産品名〉	〈産地〉	〈特産品名〉	〈産地〉
1. 紅鮭石狩漬	北海道・旭川市	39. 豆腐の味噌漬	熊本・球磨郡
2. 石狩の味	北海道・石狩	40. 馬刺	熊本
3. 数の子にしん燗製	北海道・札幌	41. 鮎の甘露煮・うるか	熊本・八代
4. いかめし	北海道・函館	42. レジマイト(ビールベスト)	熊本・水俣
5. 松前漬	北海道・函館	43. 地鶏炭火焼き	宮崎・都城
6. いなごの佃煮	山形	44. おび天	宮崎・飫肥
7. ほたるいかなの醤油漬	富山	45. 牛タン薫製	宮崎
8. 浜納豆	静岡・浜松	46. かぼちゃの漬け物	宮崎
9. 鮓寿司	滋賀・大津	47. 鰯節の味噌漬	鹿児島
10. 黒豆の甘納豆	兵庫・丹波篠山	48. かつおの角煮	鹿児島
11. 鮓寿司(いづう)	京都	49. さつまあげ	鹿児島
12. 出だのわい(ササゲ)	京都・宮津湾	50. かつおの塩辛	鹿児島
13. 鮎の馴れ寿司	京都	51. かつおの腹皮	鹿児島
14. 佃煮(津乃吉)	京都	52. 寒漬け大根	鹿児島
15. さいばし	大阪・羽曳野市	53. スモーク牛タン	鹿児島
16. 鮎巻き	大阪	54. ソーセージ	鹿児島
17. 三田屋のハム	兵庫・三田市	55. ジーマー豆腐	沖縄
18. 梅の黄金漬	和歌山		
19. ヨーグルト	岡山・蒜山	〈日本酒・焼酎他〉	〈産地〉
20. アイスクリューム	〃	57. 手作りビール	熊本・水俣
21. カマンベールチーズ	〃	58. ばんじろう(ケバブス)	鹿児島・名瀬
22. 洋酒ケーキ	広島・上下町	59. 酒 男山復古酒	北海道・旭川市
23. 鯛の浜焼き	広島・尾道	60. 酒 ふな口一番しほり	新潟・新発田
24. 蒲鉾	山口・仙崎	61. 酒 萬寿泉	富山
25. 手造り薫製	福岡・糸島	62. 酒 湖東富貴	京都・近江八幡
26. いわしの糠味噌炊き	福岡・北九州市	63. 酒 鬼杉	福岡・添田町
27. ラーメン屋のからし高菜	福岡・博多駅	64. 酒 寒北斗	福岡・嘉穂
28. うみたけ	福岡	65. 酒 香梅窓の梅	佐賀
29. 魚市場の辛子めんたい	福岡	66. 酒 白嶽	長崎・対馬
30. 志岐蒲鉾	福岡・大川	67. 酒 朱盃	熊本・山鹿
31. がにつけ	佐賀・有明海	68. 神焼酎 椎葉	宮崎・椎葉
32. 呼子甘夏ジュレー	佐賀・呼子	69. 焼酎 百年の孤独	宮崎
33. あご干し	長崎	70. 黒糖焼酎 浜千鳥	鹿児島・奄美
34. こいか・あなごの干物	長崎	71. 焼酎 七夕	鹿児島
35. しめいわし	長崎・生月	72. 焼酎 伊佐錦	鹿児島
36. 壱岐の豆腐	長崎・壱岐	73. 焼酎 伊佐大泉	鹿児島
37. チーズ(チダー・エム)	熊本・小国町	74. 焼酎 アサヒ	鹿児島
38. 辛子蓮根	熊本	75. 焼酎 華奴	鹿児島

※皆様に情報をいただいて取り寄せた特産品の一覧表です。ご参考までに紹介させていただきます。



・黒豆の甘納豆(兵庫・丹波篠山)

黒豆の甘納豆風のものが「うまい」とわかったのが福山、ところが帰ってよくみると西宮産となっている。それから黒豆遍歴がはじまった。篠山、福知山、綾部一結局、丹波篠山となった次第。「たかが黒豆、されど黒豆の甘納豆」。(い)

・手造り薫製(福岡・糸島 糸島手造りハム)

農家を拡張して調理場を作り、そこでハムやソー

セージを製造販売しています。ここでは、ソーセージの手造り教室を開いたり、敷地内に建てられたログハウスでバーベキューも出来るようになっていきます。

・いわしの糠味噌炊き(福岡・北九州市)

北九州市小倉に伝わる伝統的な家庭料理。最後にぬか床を使うのが特色。(富重 慶子)

当日いただいた特産品一覧

〈特産品名〉	〈いただいた方〉
1. いづの雀寿司(京都)	アルバックインターナショナル 池田さち子様
2. 麩嘉の生麩・麩饅頭(京都)	〃
3. めんたいの漬物(福岡)	イチケン 大串 秀夫様
4. ざる豆腐(佐賀) 醤油(朝倉)	ACB 植田 様
5. 漬物(京都)	アルバックインターナショナル 霜田 稔様
6. グリーンアスパラ(北海道)	服部メディア&研究所 岡村 真弓様
7. 辛子蓮根(熊本)	鹿島建設 毛屋 嘉明様
8. カステラ(長崎)	長崎総合科学大学 片寄 俊秀様
9. ささかまほこ(神奈川)	福岡市同和対策課 児玉 隆三様
10. クジラベーコン(宮城)	地域総合プランニング 永田伊津夫様
11. チョコレート(アメリカ)	西南大 小川 雄平様
12. わらすば(佐賀)	佐賀大学 伊藤 榮彦様
13. 野菜煎餅山花野遊(岐阜)	地域計画建築(名古屋) 尾関 利勝様
〈日本酒・焼酎他〉	〈いただいた方〉
14. 酒松竹梅(京都・伏見)	ミサワホーム 今泉 晃様
15. 酒湊屋藤助(新潟・南魚沼)	地域計画建築(東京) 鈴木 美加様
16. 酒名古屋城本丸御殿(名古屋)	地域計画建築(名古屋) 尾関 利勝様
17. 酒上善如水(新潟)	西部ガス 有岡 高春様
18. 酒橋の露(福岡・宗像)	宗像市 織戸 勝也様・永島 正彰様
19. 酒喜多屋(福岡・八女)	環デザイン研究所 廣谷 勝人様
20. キウイワイン(大阪)	福岡総合開発 大森 道信様
21. 梨ワイン(鹿児島)	〃
22. 焼酎 ひっとべ薩摩藩(鹿児島)	〃
23. 焼酎 利衛門(鹿児島・指宿)	大林組 高本義臣様 船附久美子様
24. 泡盛 8年古酒咲元(沖縄)	〃
25. 焼酎 GEN(鹿児島)	東畑建築事務所 脇山 史雄様
26. 麦焼酎 神の河(鹿児島)	福岡工業大学 大塚 尚様
27. ひし焼酎 菱娘(佐賀)	佐賀大学 伊藤 榮彦様
ひし焼酎 菱娘(佐賀)	佐賀市商工観光課 香月 恭彦様
28. 酒 夢飛行(佐賀)	〃
29. 竹八漬(佐賀)	〃
30. 焼酎 百年の孤独(宮崎)	NTT 村田 雅清様
31. 泡盛古酒 サザンバレル(沖縄)	西日本工業大学 北村 速雄様

沿道にあふれるマチの個性

— 九州「道の駅」—

これまでの道路整備は、円滑な交通、いわば『ながれ』に重点をおいて進められてきたが、その一方で、駐車や休憩といった『たまり』の機能については大きく立ち遅れた状況にある。今後長距離トリップが増大し、女性や高齢者ドライバーも増大するなかで、快適な『たまり』の空間の整備を進めていくことが必要となった。近年これと各市町村の地域振興施設を一体化し、サービスの高度化、多機能を図り、これを「道の駅」と呼んで地域情報の発信基地とする試みが、いくつかの市町村で行われている。現在、九州には5つの「道の駅」があり、各々の地域特性に応じた道の駅づくりに取り組んでいる。

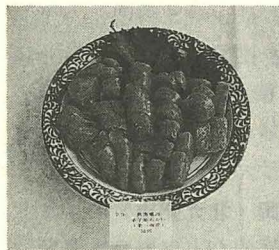
先頃私も、そのうち熊本にある3カ所の道の駅を訪れた。

はじめに訪れたのが「旭志・ふれあいセンター」。

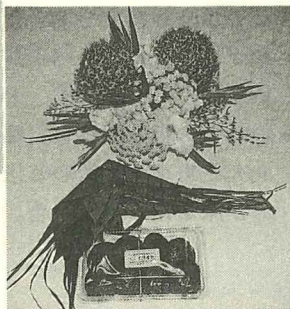
ここは菊池市に程近い村で、農業と畜産が主な産業となっている。たしかに、駅に降り立った瞬間、強烈なフンの臭いが春の微風とともに私の鼻を襲った。また、ちょうど本号が出される頃には、この付近に蛍が飛び交い、全国から見学者が集まるという。つまりここは、そんな“蛍の里”のキーステーションということになる。しかしこの道の駅が営業している時間帯に蛍の光を見ることは難しい。

施設内には、物産館、レストラン、イベントホール、裏には広場があり、まだオープンしたばかりの建物内は新しい木の香りがした。

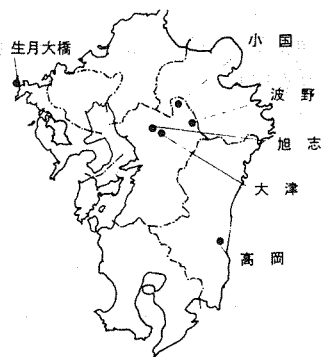
表のテントの下で地元の農家のおばちゃんたちが、野菜の即売の傍らでつくって出していただご汁を朝



魚市場の辛子めんたい

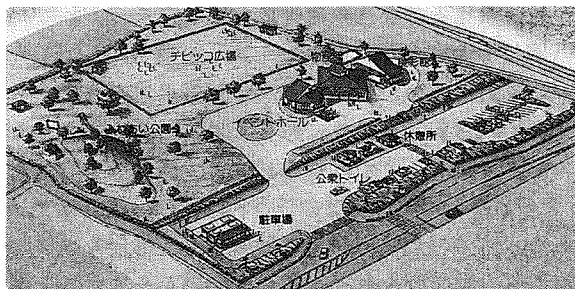


九州・沖縄「道の駅」マップ



食がわりにいただいた。

次に訪れたのが「波野・神楽苑」。大分と熊本を結ぶ国道57号にこの駅はある。阿蘇外輪山の峰々が、まるで波のように見えることにこの地名の由来がある。本号では、「高千穂の夜神楽」の方も紹介しているが、この村には「中江岩戸神楽」と「横堀岩戸神楽」の二つの神楽がある。三十三座に構成されたと伝えられる「中江岩戸神楽」は、時と共に各地域に分散していき、各地域ごとに伝承されていった。そんな折り、熊本県立劇場館長である鈴木健二氏（元NHKアナウンサー）の呼びかけで、岩戸神楽三十三



旭志村ふれあいセンター「はたるの里」

座が再びまとめあげられ、平成2年1月、県立劇場において24時間連続公演された。その模様はNHKの衛星放送で生中継され、全国に知られることとなった。

3.5haある「神楽苑」の敷地には、かなり充実した施設（食事処、神楽資料館、そば加工場、木の体験広場、イベントホールなど）が整えられており、村全体のこの施設に対する期待の大きさが伺える。

最後に訪れたのが「小国」である。

この建物を知らない人なら、それがなんなのかわからないであろう真っ黒な建築物である。立体トラス工法という日本初の建築法で、八代の板金屋さんが組み立てたという。町内にはほかにも、この町特産の小国杉で造られた建物が数多くあり、地域ぐるみでまちづくりの気運が盛り上がっている。

この小国の、道の駅駅長さんが「単なるハイテクの情報機械サービスはしたくない、道の案内ひとつにしても、直接、言葉で説明してあげたい」と話していた。



波野村「神楽苑」

「道の駅」を目的にこの地を訪れることは、なかなか無いと思われるが、ふと立ち寄ったときに思いがけずうけた親切や、サービスは、その地域の印象をはっきりと私たちに植えつけるにちがいないだろう。

(金川 薫)

観光と芸能がにぎわいに

～高千穂夜神楽の話～

〈旅館の受付で夜神楽を知る〉

ふらりと入った旅館のカウンターで宿泊カードを書いていると、受付の人から「夜神楽を見ないか？」と誘われた。送迎バスも出るから、という。高千穂は名前に引かれて寄っただけで、車が駄々をこねなければ宿泊する予定ではなかった。しかし、「夜神楽」とは旅する者の好奇心をくすぐる響きである。

〈日本神話三番目の舞台、高千穂〉

ここ高千穂市は宮崎県の北西部にある人口2万人弱の町。「高千穂」とは本来、豊かな稲穂の山の普通名詞であり、高天原、出雲につづき日本神話の舞台となった地である。市の中心部から程近い溪谷「高千穂峡」は、アマテラスが隠れた有名な「天の岩戸」の舞台とされるなど神話的なイメージをそのまま残し、神話上の地名を受け継いでいる高千穂市は神話の里として知られている。

夜神楽の行われる高千穂神社は市街地の通りに面しており、最初にイメージした「山の中、神秘的」といった感じはなかった。鳥居をくぐると高々とそびえる夫婦杉があり、ライトアップされた境内は雰囲気充分。入場料の300円を払い、神殿へ。50畳ほどの敷地内に200人以上の見物客が集まり、後ろは立

ち見。子供から老人まで、その年齢層は幅広い。旅館の浴衣姿のままの人もある。

〈高千穂の神楽は、民間に伝わる里神楽〉

神楽は日本全国にかなりの数が知られている日本古来の伝統芸能だ。元は神前で神を奉るために演じられる神事芸能であり、それが神事として継承されたもの〔御神楽〕、高千穂のように民間に伝承されてきたもの〔里神楽〕に分かれ今日に至っている。神楽の読み方、語源については諸説あるが、神楽(かむくら)の音韻転化(折口信夫説)が一般化している。

また神楽はその多様な形態から、学者によって巫女神楽、湯立神楽などと分類されている。高千穂のものは採物(とりもの:舞人が手にする神聖な道具、櫛など)神楽であり、通常能神楽と対になっている。江戸の里神楽では神話の全てを黙劇にしている一方、高千穂は採物に傾いているなど、同じ分類に属しても、地域によってそのスタイルは様々である。

本来の高千穂夜神楽は11月から1月中旬にかけての毎週土曜日、どこかの集落の民家で夜通し行われる。それが現在まで伝承され残っているものだ。近年は観光化され、シーズン以外は毎日夜の8時から、20弱の民間保存団体の手によってローテーションで行われる。旅館の人の話によれば「冬に民家で夜通し神楽を見るのが通の観光客」なのだそう。

〈演技手と客が一つになった楽しい舞台〉

いよいよ神楽が始まる。三十三番の舞のうち、ササノオの傍若無人ぶりに怒って岩に隠れるアマテラスをアメノウズメが珍妙なダンスで誘い出す有名な「天の岩戸」など、全部で三番、時間は一時間ほどである。途中のナレーションが面白く、何度も爆笑が起こる。神楽歌を歌う(客が合いの手を入れる)頃には全員が舞台に引き寄せられている。



高千穂夜神楽 手力男の舞い

中には性描写がきわどいものもあった。それは、日本神話のアダムとイブであるイザナキとイザナミが仲睦まじく酒を酌み交わし、酔ったイザナミ（♀、お面がとにかく可愛らしかった）がイザナキを押し倒すシーンである。その後の描写もあり、見物客は大笑い。シーズン中はこの2人（神）のじゃれ合いが1時間近く続くといっていた…。しかしこれは民間に伝承されてきたものであり、もともと日本の性というのはおおらかなものだったのだ。そういえばアマノウズメも胸だけでなく局部を出して踊ったらしい。見物中は興奮した後ろの淑女に肩を掴まれていたためそんなことを考える余裕はなかったのだが。

とにかく、地元に息づいている伝統が、観光（来訪者へのもてなし）と地元のにぎわいと結びついている良い「手本」を見たような気がする。

（北村 茂樹）

バンコクに似てるのは大阪か博多か

～ 山崎 誠氏講演 ～

「21世紀の生き方研究所」という、少し気になる名前の研究所を設立した、大阪在住の山崎誠氏に「世界と日本とあなた」と題し、5月18日（水）地域ゼミの一環として講演していただきました。山崎氏は足掛け3年間の世界放浪の経験を持っていますが、その体験談を中心に、自分の生き方・考え方、世界や日本の見方などに話は進みました。その内容の一部を紹介したいと思います。

- ・子供の頃から登校拒否を繰り返し、大学までは卒業したが自分が何をしたらいいかわからず、アルバイトを転々としていた。そんなときある人から「何をしたらいいかわからなかったら、自分の好きなことか、人の嫌がることをやれ」と言われ、世界旅行を決意した。
- ・最初はお金を使って遊ぶことに罪恶感を持ったが、3ヶ月くらい経った頃から旅が生活そのものになってきて、罪恶感はなくなった。
- ・ひとつのまちに1ヶ月以上滞在すると、旅行者でなく生活者としてそのまちが見られようになる。
- ・世界で一番好きになったまちはバンコクだった。ほりりがすごくて汚い所だけれども、人間がやさしくとても気持ちが良かった。物の売り買いもハンド・トゥ・ハンドでふれあいがあるし、こちらが笑えばむこうもよく笑ってくれる。やさしいまちは住みよいと思った。
- ・日本は笑顔が少なくなった。人間に「気」が無くなってきたのかも知れない。人にやさしくできるのは自分にエネルギーが余っているときだから。

・インドで持ち物全てを盗まれ一文無しになったとき、乞食が何か恵んでくれと言ってきた。こちらがポケットも全部開けて『文無しなんだ』と言うと、乞食は「かわいそうだ」と有り金を恵んでくれた。

・旅に出るときは帰って来ないかも知れないつもりだったが、いつしか「日本が好きだ」と思えるようになり、帰国を決意した。

・帰国後、生まれ育った東京から大阪に移り住んでいるが、大阪を選んだ理由はバンコクに一番似たところだと思ったから。(ここで参加者から「バンコクに近いのは博多の方じゃないか」と言われ、「こちらへ来てそう思った。次に住むなら博多かも知れない」との答え。)

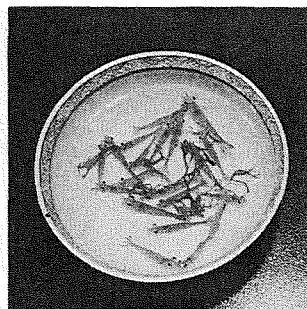
ディスカッションに移ってから様々な質問が来ました。「これからの日本はどうなると思うか」の問いには「ひとつは学校がなくなると思う」と、こちらの思いも寄らない答えが返ってきました。教育の基本は親になるだろう、日本にこれから個性が育つかどうかは気になる、ということでした。

(伊藤 聡)

食 場 日 誌

・4月×日 ボスの誕生日にお供して長崎の茂木の港まで出かけて行った。場所は「別亭、海月」。すっかり日がおちて真っ暗になった海を横目にみながら、甘えびのおどりをいただいた。口の中で小ぶりの甘えびがキュッとおびえる。これに容赦なく歯をたてて「ああ残酷だ……でもおいしい。」「噛んでごめんね……やっぱりおいしい。」と慈悲と感

5~6cmの小ぶりの甘えび
がどんぶりに入ってくる



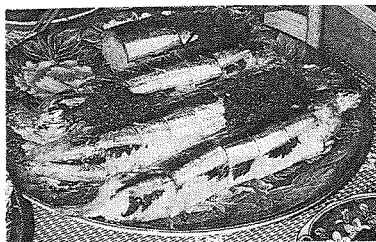
激の心がないまぜになりつつ、やっぱり一匹、二匹と着実に胃に納めていく。(お)

・4月×日 炭住改良住宅の起工式に出て、そのあと“なおり”を戴いた。今どきはクルマ社会になっているのでなんとなく味気ない。それよりも、炭住の路のかたわらの土手に咲いていたスマイレには眼をうばわれた。都心でもフラワースポットなどに花が植えられているが、その質がちがう。土手のスマイレが発している光にはエネルギーがあふれていた。(い)

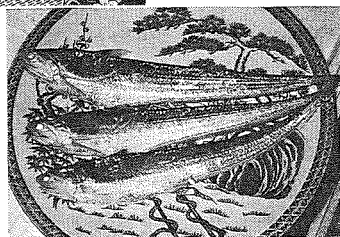
・4月×日 車にのって熊本へ。旭志村にある「道の駅、ふれあいセンター」でダンゴ汁をいただいた。近所の農場からのコヤシの臭いと、露店の店主の老夫婦の微笑みに囲まれて食べる。野菜たっぷり、肉たっぷり、ダンゴたっぷり。薄味の「だごじる」は、なつかしいいなかの味がした。

でも、どうして「ダンゴ」と言っておきながらどんの麺のように細いのだろうか。(お)

・5月×日 防府へ木喰仏をさがしに出かけた。当然のことながら瀬戸内のうまい魚を期待して出かけたのだが、全く当がはずれた。何年か前に下松でうまいヒラメを食べたことがあったが、防府では路傍のレストランにさえも行き当たらず「うま



酢でしめた
エツの寿司



笹の葉と同じ形をしたエツ
体長30cmくらい

いものがない街は発展しないぞ」とつぶやきながら離れた。木喰仏の収穫はあったのに、有難味がうすれてしまった。(い)

・5月×日 滋賀県の卯田さんのところを訪ねて鮠と鮎の馴れ鮎をいただいた。かなり癖のある食物だが、6月3日よかネットパーティでは、けっこうさばけていた。(い)

・6月×日 筑後川で今が旬のエツ料理を食べた。弘法大師が笹の葉をエツにしたとか、この魚にまつわるミステリアスな話は多い。屋形船にのってエツのフルコースをいただいたのだが、フルコースとはいいいながら、鉢盛り→刺身→てんぷら→刺身→すし→刺身→刺身と変則的に刺身が出てくるのには笑った。なんでも「エツ料理は終わりというものがない」エンドレスのコース料理だとのこと。味の方は今が旬というだけあって、おいしかった。船頭さんが網をかけていたが、とれたのは3匹ばかり。年々少なくなっているとのこと。(お)



車椅子の少女が
街に出た！
「奈美ちゃんの赤い靴」

矢貫 隆 著
(日本経済新聞社)

私は、昨年度に、高齢者や障害者などのハンディキャップを持っている人々に対するやさしい街づくりという仕事に係わり、このような人々にとっての障害のない街づくり、といったことを考えている時、新聞広告でこの本のことを知りました。

本書は自動車雑誌「NAVI」の91年12月号、92年1月号、92年5月号～93年3月号に掲載されたものをまとめたもので、当雑誌愛読家の方は既にお読みになっているかも知れません。

内容は、主人公の奈美ちゃんが高校卒業の約2ヶ月前に交通事故に会い、入院し、車椅子生活を宣告され、リハビリして社会復帰するまでの約4年間の記録を追いつけたルポルタージュです。

このような仕事に関係しているにも係わらず、私自身お恥ずかしい話であります。同じ車椅子利用者であって見た目はそれほど変わらなくても、そのハンディキャップに大きな差のあることを知らされました。彼女は交通事故で脊髄損傷となるわけですが、同じ脊髄損傷といっても脊髄の何番目を損傷するかで不全損傷(脊髄の横断面の一部が損傷しており、運動機能と知覚機能の一部が生き残っている)と、完全損傷(首から下の感覚は全く失われるが、運動

能力は微かに残る)に分かれ、その後のリハビリに大きなハンディキャップがあります。

彼女の場合は完全損傷であり、運動能力が不全損傷に比べて著しく劣ると同時に、発汗調整ができなく気温の高いところに長くいると呼吸困難を引き起こすなど、我々一応健康な者には想像できないことも記されています。

当著書は障害者の「移動環境」という視点でルポルタージュされています。移動環境の整備は障害者が外に出やすくなるための一部分ではありますが、社会復帰のためのリハビリや就職の現実といった問題についても記されているように、総合的な対策の必要性を感じる次第です。

ちなみに87年の厚生省の調べでは、18歳以上の身体障害者は240万人。うち約6割程度が奈美ちゃんのような肢体障害者であり、一方、90年の労働省の調べでは、全国約4万8千の企業で働く労働者約1,548万人のうち心身障害者の数は約20万人で約1.3%であるということです。(山田 龍雄)

編集後記

先日、筑波コンソーシアムの河本さんが「かしい都市」ということを言われていたが、そのとき「できた女房」という話を思い出した。それは亭主の知恵や活力を引き出して、良い仕事ができるように励ましたり、なだめたり、引き立てたりする女房のことである。都市というものも、男性的であるより女性的イメージの方が似つかわしいように思う。「母なる大地」があるなら「母なる都市」があってもよいのではないか。

都市は知恵の出会いの場であって、その中から地域づくりの活力が生まれてくる。‘よかネット

パーティ’も、そのひとつというつもりで行わせていただいているが、今年は去年より、参加意識(うまくいえないが「遊びに来たぞ」という感じ)を持った方が多かった。有り難いことだと思っている。ところが、今、地方から知恵がどんどん逃げていくという危険な兆候が現れている。そのことを書いたのが、9頁の山田のリポートである。高齢者となつてから、田舎から都会へ出ていく人が増えるというのは、どういうことであろうか。その動きは、鹿児島・長崎県に顕著で、宮崎・大分県なども続いている。ところが、沖縄県では全くその動きは出ていない。今の都市は、引っ越してきた老人たちの知恵を活かしてくれるような仕組は全くもっていない。ちょっと大げさだが、「人生の全うのしかた」とか「人生の幸福はいつ計るのか」など、難しいことを考えてしまう。一度この問題については、まともに取り組んでみたいと思っている。(い)

よかネット NO.10 1994. 7

(編集・発行)

㈱九州地域計画研究所

〒810 福岡市中央区天神1-15-1 日之出ビル6F

TEL 092-731-7671 FAX 092-731-7673

(ネットワーク会社)

㈱地域計画建築研究所

本社 京都事務所

TEL 075-221-5132

大阪事務所

TEL 06-942-5732

名古屋事務所

TEL 052-962-1224

東京事務所

TEL 03-3226-9130